

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

去る7月23日（火）から24日（水）の1泊2日に亘って、「第21回子供禅の集い」（仁叟寺、龍源寺共催）が開催されました。関係者各位の協力の下、今年も21回目を参加者31名を迎え無事終了

第21回子供禅の集い報告

いたしました。

小学校2年から6年まで、地域は高崎から吉井など様々なところから31名もの参加があり朝夕の坐さむ禅や作務（掃除）、法話といったお寺での修行生活を体験。また、夜は楽しい度胸試しや花火大会などが行われました。

ほか、当寺檀家総代、金子明氏による毎年恒例の粘土細工講座も開かれ、子供達は粘土でお地蔵さんなどを作製。夏休みの中で印象深い思い出が作れたのではないのでしょうか。

同行事は来年も開催予定。規律

正しい生活の中であって、自然と禅に親しむこの企画。奮ってのご参加、お待ちいたしております。



上毛新聞（七月二十七日付）より

**平成14年
仁叟寺年間行事予定**

1/1	年頭祈禱
1/3~1/4	年始挨拶
2/3	節分会
2/15	涅槃会
3/10	大般若法要
3/18~3/24	春彼岸
3月末	筆供養
4/8	花祭り
7/12~7/16	県外檀信徒棚経
7/23~7/24	子供禅の集い
8/13~8/16	お盆
9/20~9/26	秋彼岸
12/8	成道会
12/31	除夜祭
毎週土・日曜日	書道教室
毎週水曜日	定期坐禅会・華道教室
隔週水曜日	梅花講講習会

**第21回
仁叟寺子供禅の集い寄付単**

工作用粘土及び工作指導	金子明
花火代	東京精密管(株)
同	タルヤ建設(株)
同	十一屋酒店
保険代	庭田保険事務所
スイカ沢山	吉田宇四郎

**どうもありがとうございました。
(順不同、敬称略)**

**定期坐禅会
参加者募集中！**

毎週水曜日午後7時から8時迄。年齢性別宗派等は一切問いません。副住職が初心者から指導いたします。是非、ご参加下さい。お問い合わせは、仁叟寺まで。

(TEL) 027-387-3080
(FAX) 027-387-8766
(e-mail) ryugenji@alpha.ocn.ne.jp



東洋大学ゼミ合宿

授業を行うゼミ生 3日に亘って「東洋大学印度哲学科渡辺ゼミ」のゼミ合宿が当寺に於いて行われ

去る ました。参加者は同ゼミの3、4年生8名。
 9月10 企画をした渡辺章悟教授は「坐禅や読経な
 日 通した実践的な合宿を行いたかった」と
 (水) 語っていました。
 ~12日 実際、参加者全員お寺での生活は初めて。
 (金) 朝早く起き、坐禅や朝のお勤めなどを体験。
 の2泊 日中は般若心経の講義などが行われました。
 参加したゼミ生は、「お寺での生活は初めての
 の体験で新鮮。また、来年も参加したい。」
 と話していました。

ペット供養について

犬や猫などペットを飼われている方は多いかと思われます。このペット、亡くなった後はどうなさっていますか？

当寺の庭園「きんせいえん欣正園」内の一角に生類供養塔があり、家族の一員だったペットのご供養を受け付けています。また、犬猫だけでなく鳥やハムスターなどの納骨も可能です。

同供養塔内部は納骨堂になっており、合祀という形で供養ができるようになっております。なお、詳細は当寺まで。

生類供養塔



新調されたオリエンテーリングの標識



オリエンテーリング標識設置

オリエンテーリング（以下OL）とは、地図とコンパスを頼りに地図上に記されたコントロール（チェックポイント）を回ってく

た。当寺は群馬県オリエンテーリングの吉井地区のコースに末寺の龍源寺（多胡）と共に指定されています。当寺は吉井町歴史遊歩道などにも指定されています。スポーツの秋ということで、自然を身近に感じられるOLを散歩がてらに行ってみてはいかがでしょうか？

寺史編纂室通信3

寺史編纂室では現在、古文書の解読作業が進められています。当寺の古文書は吉井町の史跡にも指定されており、古いモノでは1496年（戦国時代）の文書も現存しております。

その膨大な量の古文書を1つ1つ解読し、時代別などに整理し、目録台帳に登録するといった地道で根気の要る作業が、小林譲、長谷川寛見両委員によって行われております。

古文書の解読作業は寺史のみならず歴史書の編纂にあたり、避けては通ることが出来ない骨の折れる作業です。両委員は毎週火曜に来寺さ



作業を行う小林、長谷川両委員

れ黙々とその作業を行っております。この、古文書の解読を通じ、当寺だけでなく地域に於ける新たな歴史的な発見などがあるかも知れません。

紙面を借りて、両委員に改めて謝意を申し上げます。

仁叟寺探索-1-

今号から始まったシリーズ記事「仁叟寺探索」。記念すべき第1回目は、本堂に掲げられている書を紹介いたします。

この書の作者は江戸時代末期、幕府の大政奉還や江戸城無血開城などに功績のあった「勝海舟」の直筆。親幕府側の新潟の長岡藩に協力を求める道中、当寺に宿泊し、この書を残したと伝えられています。

書は「清浄地」と書かれており、その意味

勝海舟の豪快な書



は「清らかなる聖地」といったところでしょうか。筆者の豪快であったといわれている性格通りの雄大な書です。

上から、法輪旗・仏旗・国旗



法輪旗・仏旗・国旗掲揚台

吉井町吉井の横田裕一氏が、亡き父の菩提供養にと当寺駐車場前に『法輪旗、仏旗、国旗掲揚台一式』を寄贈して下さいました。我国では、宗教心や愛国心がなくなって久しいとはくく言われております。その心を少しでも育んでいただきたいと思います。当寺にお越しの際に、是非ご覧下さい。

じょやえ

除夜会について

今年も恒例の仁叟寺除夜会そして節分会が近づいてまいりました。当日は除夜の鐘をはじめ「大晦日坐禅会」「大お焚き上げ」「新年祈祷」などの企画や多数の露天で境内は賑わいます。また、甘酒や焼き餅なども振舞う予定。ほ

か、昨年好評を博した胡弓こきゅうなどの演奏会なども開催予定。

是非、ご家族や友人知人などお誘い合わせの上、当寺までお越し下さい。

また、檀家総代さん及び世話人さんにおかれましては、今年もお手伝いを御願いたします。詳細は年末の役員会後に報告いたしますので、宜しく御願申し上げます。

さて、今回は除夜の鐘の謎について。なぜ百八回鐘を撞つくのでしょうか？答えは以下。

百八の煩惱ぼんぷというのは、こう説明されます。人間の感覚を司る眼（げん）耳（じ）鼻（び）舌（ぜつ）身（しん）意（い）の六つ（これを六根と呼びます）が、そ

れぞれに好（気持ちが良い）悪（不快）平（どちらでもない）の三種があって $3 \times 6 = 18$ の煩惱となり、これが、また浄（きれい）染（きたない）の二種に分かれ $18 \times 2 = 36$ の煩惱になり、さらに、過去、現在、未来の三つの時間が関わって、 $36 \times 3 = 108$ となります。これが、百八の煩惱だということです。これを鐘の音がきよめていくということです。日本では、鐘や鈴の音に浄化作用があるというのは古くから信じられていました。秋の虫の代表である鈴虫を日本人が昔から愛めでるのも、ここにその理由があるのかも知れませんね。



仁叟寺鐘楼堂
(吉井町重要文化財)



除夜の鐘

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

例年に比べ暑かった夏も終わり、境内では虫の音が秋を告げています。平成14年最後の仁叟寺報「山雲水月」第4号（秋号）、をお届けいたします。

さて、紙面でも紹介した通り、現在「寺史編纂室」の活動が大変盛り上がりしております。編纂委員の方々も、いい寺史を作るといふ気概の下、日々精進を重ねております。この秋には編纂室主催で当寺に縁のあるご寺院

3ヶ寺の研修参拝旅行も企画。実りのある取材を行いたいと考えております。寺史の編纂は大変時間がかかる根気のいる作業です。筆者も微力ながら最善を尽したいと思っております。

